

## ごみ減量市民会議 3年間の活動まとめ

### I. 生駒市ごみ減量市民会議の設置

生駒市ごみ減量市民会議開催要綱（平成 28 年 7 月 14 日施行）に基づく。

### II. 設置の趣旨

市民・事業者・行政の連携により、ごみ減量に向けた活動を実践し平成 23 年 5 月に策定された「生駒市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画（ごみ半減プラン）」に掲げる燃えるごみの半減目標を達成するため、生駒市ごみ減量市民会議を開催する。

### III. 参加者

生駒市ごみ減量市民会議開催要綱第 3 条に基づく。

自治連合会5名、市民団体代表者7名、公募市民4名

第 3 条 市長は、次に掲げる者のうちから、会議へ参加する者（以下「参加者」という。）に参加を求めて会議を開催するものとする。なお、原則として同一の者に継続して会議への参加を求めるものとする。

- (1) 生駒市ごみ半減会議会員のうち、ごみ減量に向けた活動の実践に賛同する者
- (2) 市民団体等の代表者
- (3) その他市長が必要と認める者

### IV. 生駒市ごみ減量市民会議活動内容

生駒市ごみ減量市民会議は、その活動にあたり以下の①から⑥を軸に活動を行う事を会議の中で確認し実施してきました。

#### ① 市民意識の把握

平成 28 年 9 月に実施した「ごみ減量化にむけて」アンケートの内容を把握しました。この中で、有料化によるごみ減量を効果的と感じる人がごみ有料化前に実施したアンケート結果に比べ増えており、ごみが減っていると市民が感じていると考えられます。ごみ有料化の収入について市民への還元を求める意見も確認しました。

また、環境フェスティバルやいこま魅力博等のイベント内でシールアンケート等の実施しイベント参加者の意見を確認しました。主な内容は以下のとおりです。

- (1) 家庭ごみ有料化が始まって、燃えるごみの量が減ったと感じている回答が 86.6%と多くの方が減量を感じています。（平成 28 年 11 月 13 日 いこま博実施

分)

- (2) ミックスペーパーを分別しているとの回答は 85.6%と多くの方が実施しています。(平成 28 年 11 月 13 日いこま博、平成 29 年 6 月 25 日環境フェスティバル実施分)
- (3) リユースの取り組みとして清掃リレーセンターでリユース可能な大型ごみを無料収集していることを知っている人は 51.1%、小型家電回収ボックスがある場所を知っている人は 50.2%とそれぞれ約半数でした。(平成 29 年 6 月 25 日環境フェスティバル実施分)
- (4) 生ごみについての確認では、エコクッキングに心掛けている人は 77.6%、水切りなどの対応をしている人は、95.7%、生ごみ処理器を使っている人は 18.5%となっています。(平成 29 年 11 月 12 日いこま魅力博実施分)
- (5) 生ごみ処理器「キエーロ」を知っている人は、47.6%となりました。(平成 29 年 11 月 12 日いこま魅力博から平成 30 年 11 月 11 日いこま魅力博までの 4 回のアンケートの結果)
- (アンケートの詳細は、資料 イベントでの啓発活動を参照。)

## ② 自治会単位の懇談会の実施

自治会懇談会実施内容

「燃えるごみ削減に向けて」(パワーポイント)の説明に続いて、懇談にてごみの出し方について説明を行い、その後、質疑応答を実施しました。この時、会場の大きさや参加人数に応じてグループに分け懇談を実施しました。減量の取り組みについてキエーロの説明も行い、興味を持たれる方にモニターになっていただきました。

開催状況 (詳細は、資料 自治会懇談会の実施を参照)

年度	開催日	団体	参加人数	備考
28	平成 28 年 10 月 6 日	萩の台自治会	36 名	
	平成 28 年 11 月 6 日	あすか野自治会	18 名	
	平成 29 年 1 月 9 日	小明台自治会	30 名	
	平成 29 年 2 月 19 日	辻町アーバンライフ自治会	20 名	
29	平成 29 年 5 月 17 日	いこま寿大学	4 名	
	平成 29 年 5 月 18 日	いこま寿大学	12 名	
	平成 29 年 12 月 3 日	ひかりが丘自治会		不用品交換会参加者が対象のため人数不明 キエーロモニター5名[応募]
	平成 29 年 12 月 15 日	壺分町西自治会	32 名	キエーロモニター3名応募

30	平成 30 年 5 月 16 日	いこま寿大学	8 名	
	平成 30 年 5 月 17 日	いこま寿大学	3 名	
	平成 30 年 6 月 15 日	壺分東自治会	34 名	
	平成 30 年 7 月 15 日	鹿ノ台自治会	27 名	キエーロモニター 1 名応募
	平成 30 年 7 月 21 日	谷田町自治会	31 名	キエーロモニター 2 名応募
	平成 30 年 11 月 18 日	東旭ヶ丘自治会	47 名	キエーロモニター 6 名応募
	平成 30 年 12 月 8 日	北大和自治会	28 名	キエーロモニター 6 名応募
	平成 30 年 12 月 14 日	久保自治会	26 名	キエーロモニター 1 名応募
	平成 31 年 2 月 24 日	萩原町自治会	30 名	キエーロモニター 7 名応募

3 年間で 17 回実施。参加者合計 386 名。

懇談の中で市民から収集した主な意見は以下のとおり。

- (1) プラスチック製容器包装の分別がわかりにくい。
- (2) プラスチック製容器包装は、製品のプラスチックとなぜ分けなければならないのか分からない。
- (3) 汚れたプラスチック製容器包装をどこまできれいにすればよいか、燃えるごみに出したほうがいいのか、判断が難しいと感じている。
- (4) クリーニングのビニールカバー・プラスチックのハンガー、バラ、商品やサービス紹介の冊子を包むビニール等、プラスチック製容器包装の対象外であることを知らなかった。
- (5) ミックスペーパーの分別がわからない。
- (6) シュレッダーの紙はリサイクルのごみとして出せるのか。
- (7) お酒のパック等内側が銀色の素材でコーティングされているものはリサイクルとして出せるか。
- (8) 衛生社の冊子が分かりやすい。
- (9) ごみ有料化に伴う歳入、歳出について。
- (10) このような説明会をもっと実施すればいいのでは。(ごみ分別、キエーロ啓発等の話を受けて)
- (11) 有料化後、自分の出すごみが減ったと感じている人が多い。
- (12) 燃えるごみをさらに減らすことができると感じている人は多くいる。

### ③ 有料化の成果についての PR

自治会懇談会においてパワーポイントで説明を実施しました。

説明内容については、資料「燃えるごみ削減に向けて」を参照。

## ④ 生ごみの減量

### (1) エコクッキング開催

エコクッキングを6回開催し、調理に先立ちごみの分別についての説明を実施し、調理中に、生ごみを減らすための調理の工夫を実践の中で紹介。

年度	開催日	参加人数	場所
29	平成30年2月23日	30名	セラビーいこま3階 調理室
30	平成30年8月28日	31名	北コミュニティセンターISTA はばたき2階 調理室
	平成30年11月27日	16名	たけまるホール1階 調理室
	平成30年11月30日	41名	生駒幼稚園1階 多目的室
	平成31年1月30日	26名	セラビーいこま3階 調理室
	平成31年3月28日	46名	北コミュニティセンターISTA はばたき2階 調理室

参加者合計 190名

### (2) フードドライブ実施

たけまるホール1階調理室前で毎週木曜日午前9時から午前12時まで受付。

平成29年4月から平成31年3月末までに724点、233kgの食品が集まり、フードバンク奈良を通して、福祉施設へ提供された。

### (3) 食品ロス削減に関する啓発活動

自治会懇談会や各種イベントにおいて、家庭から排出される燃えるごみの中に生ごみが約4割を占めていることを紹介し、賞味期限切れの廃棄や食べ残しによる廃棄で燃えるごみが増えないよう、食品ロスを生まない意識についての啓発や生ごみ処理器の活用、フードドライブの活用等、啓発活動を実施しました。

### (4) 先進地視察（斑鳩町）

ゼロ・ウエスト宣言を行い、生ごみについては分別収集を行っている斑鳩町の視察を行いました。生ごみはモデル地区内の希望者のみで実施しており視察時には斑鳩町の半数の世帯で実施しているとのことでした。各家庭では密閉式のバケツ（ごみ出しの際には水切りできる）を使用し、集積所の専用バケツに生ごみを投入し、収集時は専用バケツを含め回収されバケツは洗浄されて次回収集の前日までに戻される流れとなっていました。

## ⑤ キューロの普及

ごみ減量市民会議の参加者自らキューロを使用し、ごみ減量市民会議において使用状況の確認を行い、普及時の説明方法について確認しました。このことを踏まえて、キューロ製作講座、自治会懇談会、各種イベントでプランターde キューロの普及活動を実施しました。

### 製作講座等実施状況

年度	開催日	イベント	人数	
28	平成28年6月26日	環境フェスティバル内キューロ製作講座	20	
	平成28年7月30日 31日	夏休み環境自由研究「ごみキューロしよう！」	33	
	平成28年10月1日	キューロ製作講座	27	
	平成28年10月8日	キューロ製作講座	26	
29	平成29年6月3日	キューロ製作講座	17	
	平成29年6月10日	キューロ製作講座	9	
	平成29年6月11日	キューロ製作講座	11	
	平成29年7月22日 23日	夏休み環境自由研究「ごみキューロしよう！」	56	
	平成29年8月4日	キューロ製作講座	20	
30	平成30年6月30日	キューロ製作講座	20	
	平成30年7月7日	キューロ製作講座	-	豪雨のため中止
	平成30年7月21日 22日	夏休み環境自由研究「ごみキューロしよう！」	46	

### プランターde キューロモニター参加者

平成28年度 106台

平成29年度 144台

平成30年度 154台

モニター参加者のアンケート結果から、使用方法を誤っているために、臭いや虫が発生し、使用を断念している状況から、アフターフォローのチラシを作成し、対象者へ送付しました。

## ⑥ 資源ごみの分別

自治会懇談会において実際の資源ごみ等（ペットボトル、プラスチック製容器包

装、製品のプラスチック、ミックスペーパー等)を確認いただき、正しい分別方法を紹介し、その後、グループに分かれ対話形式で市民の疑問に回答しました。実際のごみを用いたり、商品毎に個別に分別方法を紹介することで、参加者から「分かりやすい」「もっと他でもこのような場を設けてほしい」との声がある一方、容器包装リサイクル法に基づくプラスチック製容器包装の分別が「分かりにくい」、「同じプラスチックなのに製品と包装となぜ分ける必要があるのか」との意見もありました。

## **V. 活動評価のまとめ**

### **1. 燃えるごみ減量の状況**

平成 25 年度と比較し重量では約 13%の減少となり、ごみ減量市民会議においての目標 25%には届かない状況でした。この状況についてこれまでの活動に基づき、その要因を以下のとおりまとめます。

#### **(1)啓発のみでの減量化の限界**

過去のごみ量の推移から、ごみの分別の種類の変更や有料化等の施策を実施しないと大きな数値の変化にならないと言えます。また、有料化導入にあたって、学識経験者から「生駒市はごみ有料化実施後リバウンドしやすいと考えられる」との意見を聞いていた中、ほぼ増減なしで推移していることから、ごみ減量市民会議での啓発等の成果でリバウンドを防いでいるとも考えられます。

#### **(2)生ごみ分別処理の施策が無かった**

「生駒市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画（ごみ半減プラン）」では、生ごみをエコパーク 21 で処理する計画を示していましたが、結果的に実現しないまま今日に至っています。生ごみは燃えるごみの中の約 4 割（重量比）を占めると組成調査の結果で示されており、生ごみ分別処理の施策があれば、燃えるごみ半減の達成は難しいとしても、現状よりさらに減量できた可能性はあると思われれます。

#### **(3)ごみ減量の重量と容量の結果の差**

市民の意識の把握として調査や懇談の中で確認した結果としては、有料化により燃えるごみが減ったと多数の人が感じています。

燃えるごみの重量比では 13.2%の減量ですが、容量比で見れば減少率は 33.9%を超えています。(資料:燃えるごみの量の変化 参照) 市民としての実感は使用するごみ袋の大きさや集積所に積まれたごみの量によるものとなります。

収集量や組成調査の結果を用いて確認すると、平成 29 年度に実施した燃えるごみ

の組成調査結果を平成 30 年度の燃えるごみの量に適応させた状況から、生ごみは重量では燃えるごみの 46.2%なっていますが、容量では 17.4%であり、プラスチック製容器包装の約 25.6%、ミックスペーパーの 18.5%に次いで量となっています。

(資料：各指定ごみ袋での組成の比率 参照)

生駒市の指定ごみ袋が容量制であるため、容量の多いものから分別を実施すると比較的重量の軽いものから分別が進んでしまい、その結果、重量での減量が進みにくい状況となっていると考えます。

## 2. 生ごみの減量について

燃えるごみ減量における生ごみの減量の取り組みとして、市民が実践できることは、「調理時の廃棄を減らす」、「食べ残しをしない」、「水切りをする」、「生ごみ処理機で自家処理をする」等の取り組みがあります。

市民が実践している状況は、調査の結果から、

(1)生ごみについての確認では、エコクッキングに心掛けている人は 77.6%

(2)水切りなどの対応をしている人は、95.7%

(3)生ごみ処理器を使っている人は 18.5%

(平成 29 年 11 月 12 日いこま魅力博実施分)

(4)生ごみ処理器「キエーロ」を知っている人は、47.6%

(平成 29 年 11 月 12 日いこま魅力博から平成 30 年 11 月 11 日いこま魅力博までの 4 回のアンケートの合計結果)

となっています。

生ごみは、燃えるごみ全体でみて重さでは、4割を超える比率ですが、容量では 17.4%となっており、ごみ有料化の指定袋制で分別が進みにくい分類です。

また、市民の方の普段の取り組みですでに水切りやエコクッキングは多くの方が取り組まれており、食生活の中での大幅な減量は難しいと考えられます。ただし、「食品ロスの削減の推進に関する法律」が令和元年 5 月 31 日に公布されたこともあり、今後、食品ロス削減の取り組みについて継続して実施する必要があると考えられます。

さらに、生ごみ処理機については、平成 29 年 11 月 12 日いこま魅力博でのアンケート結果で生ごみ処理器を使っている人は 18.5%にとどまっており、プランター de キエーロのモニター結果において 1 年後の継続率は約 6 割程度となっているので、生ごみ処理機だけで減量を進めることは難しい状況です。

## 3. 啓発活動の必要性

ごみ減量市民会議において、自治会懇談会、キエーロ製作講座、エコクッキング教

室、環境フェスティバル等イベントでの啓発を行いました。以下に示す市民の意見や状況から啓発活動は今後も継続して実施することが重要と考えます。

- (1)ごみの分別については、多くの方が分別を行っていますが、さらに分別ができる余地があることを確認できました。分別の方法について文字の情報だけでは分かりにくいことを懇談会等で説明することで理解してもらえます。ただし、プラスチック製容器包装については、対象となるかどうかの判断に迷ううえ、容器包装リサイクル法に基づくことからプラスチック製品は対象にならないことが理解されにくい状況であり、説明に工夫が必要です。
- (2)生ごみについては、シールアンケート等での結果において、キエーロやフードドライブの言葉を知らない方が半数以上あり、食品ロス削減につながる取り組みについて、今後さらなる啓発が必要です。
- (3)自治会懇談会については、「話を聞いて良かった」「もっと開催すべき」との意見がありました。
- (4)キエーロについても自治会懇談会同様、市民からもっと紹介の機会を増やすべきとの声がありました。
- (5)エコクッキングや自治会懇談会での班分けのティーミーティングは場を和まし、前向きな雰囲気になることが多くありました。今後の活動においての工夫の材料となります。

## VI. 今後の取り組みの提案

新たな生駒市一般廃棄物処理基本計画は令和3年4月施行する予定で、それまでは、現計画に基づくこととなりますが、これまで実施してきた結果から、燃えるごみの減量は、新たな施策を策定しなければ、減量は難しい状況です。このことから、令和元年8月から活動する新たな組織は、現計画が終了するまで、燃えるごみが増加しないよう啓発を実施していくこととし、より啓発活動を中心とした取組を行います。

## VII. 新たな生駒市一般廃棄物処理基本計画に向けての提案

新たな生駒市一般廃棄物処理基本計画次期計画に向けて、これまでの活動に基づき以下の提案を示します。

- (1)ごみの分別の種類の変更や有料化等の施策を実施しないとごみ減量の数値の変化が現れにくいことや啓発だけではごみ減量の数値に大きな変化は生じにくいことを踏まえて、ごみの減量の数値設定は、実現可能なものとする。



(2)今後の超高齢化社会の到来に向けて、現状のごみステーション方式の出し方では、坂道の多い中でのごみ出しの負担が多くなることが予想され、個別収集について検討する。また、プラスチック製容器包装の分別の複雑さに伴う負担を軽減するため廃プラ（プラスチック製容器包装以外のプラを含む）の収集対応を検討する。

(3)生ごみや剪定枝等の廃棄物について焼却に頼らないごみ処理手法の導入を検討し、視察を行った斑鳩町の生ごみの処理手法や鹿児島県にバイオによる処理施設が稼働しており、これらを参考にする。